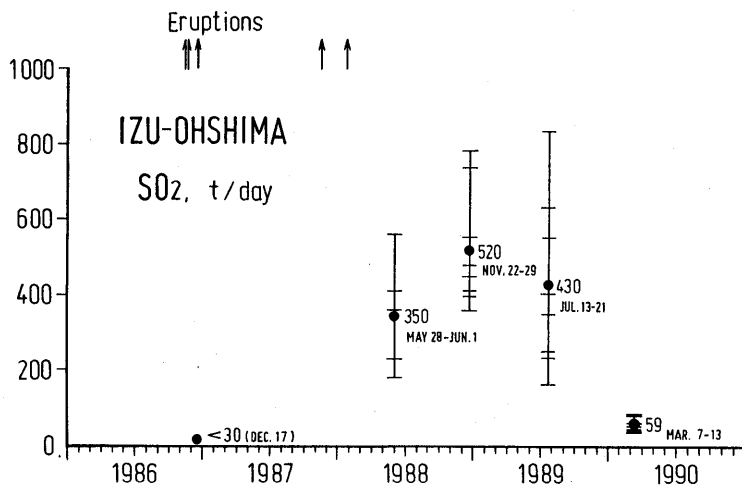


# 伊豆大島火山における二酸化イオウ 放出量の推移 (1986～1990年)\*

九州大学理学部附属  
島原地震火山観測所

1986年の噴火後、3年4箇月が経過した。噴煙活動は、当初の1年間は低調であったが、1987年11月16～19日の噴火による火口開孔以後活発化したものの、最近に至って急激に劣えている。

相関スペクトロメータ(COSPEC)による山頂火口からの二酸化イオウ放出量の測定結果も、1989年末頃を最高に減少に転じ、1990年3月7～13日の期間平均値は数十t/日に低下して、火山活動が静穏化しつつあることを示唆している。



第1図 伊豆大島火山山頂火口からの二酸化イオウ放出量の推移

Fig. 1 Variations of emission rates of sulfur dioxide from the summit crater of Izu-Oshima Volcano. Each point represents the daily mean value on each measuring period, and each lateral short bar indicates the daily value.

\* Received July 16, 1990